

【小樽地方納税貯蓄組合連合会会長賞】

感謝の気持ちで税金を

小樽市立長橋中学校 三年

山際 董

私たちが買い物で払う十パーセントの消費税。私は毎回レシートを見るたびに安く買ったつもりの方が少し高く感じることはありません。一昨年に増税した際、多くの人が反対の声を上げるニュースを沢山見ました。私は増税によって国民の負担が増えることが本来に必要なのかと疑問を抱きました。そんな中、学校の授業で税理士の方が税について説明してくださり五十種類以上の税金があることや、私たちの身近でも沢山の税金が使われていることを学びました。

私は今回、作文を考えるにあたって私自身が持っていた病気について考えさせられました。私は小学一年生から今までずっと小児てんかんで毎日薬を飲んで症状を抑えていました。朝・晩の薬の服用や半年に一度の脳波の検査・血液検査がありました。私はてんかんを含む「自立支援医療制度」という通院治療が必要な人に対する助成制度を受けて、通院していたそうです。医療費負担が一割となつて診察や投薬・検査などのお金の負担が軽くなりました。先生からは「大きくなると脳波の乱れはだんだんと治まってくるよ。」と言われましたが、母は学校で倒れたりけいれんの発作がまた発症するのではないかといつも心配していたようです。今では脳波の乱れは落ち着き、薬の服用をせずに順調に進んでいる所です。私はこの経験を通して改めて

税金について知り、考えることができました。税金によって人の命が救われたり介護のサービスや年金、私たちが毎日使っている教科書などの教育、公共施設など身近な生活の中で目的を持って使用されていることが分かりました。そのことを考えると、成人してお金を納めるずっと前から税金がどのように使われ、私たちに大いに役立つのかと知っている事が大切だと感じました。

今、一生懸命に働き、税金を納めてくださっている大人の方々に感謝の気持ちが湧きました。そして私が買い物をしてレシートの数字を見たとき、以前とは違う視点から見る事ができるはずです。